

令和6年度第6回高知県不登校児童生徒の多様な教育機会確保に関する協議会
<議事概要>

日 時 令和6年7月12日(金) 13:15~14:45

場 所 高知共済会館 3階 桜

1 開会

◆教育長挨拶

◆委員長挨拶

2 議事

- (1) 学びの多様化学校視察報告
- (2) 「誰もが学びやすく居心地のいい学校づくりに向けたニーズ調査」について
- (3) 「学校外の学びの場」について

(以下記号：協議会委員○、事務局●)

● (1) 学びの多様化学校視察報告

資料1 大和市立引地台中学校

資料2 八王子市立高尾山学園

資料3 中野区中野中学校

- 本視察には、委員も同行している。補足があればお願いしたい。
- 設置計画段階では想定していなかったことが運営後に分かり、苦労したという話があり、設置計画の段階から、ある程度どういう運営にしていくのか、どういう学びの場所にしていくのかという準備をする必要があるのではないか。
- 学びの多様化学校は、高知県を牽引する学校として、しっかりと計画的に作られるべきだと感じている。
- 制度的立て付けは、分教室型の引地台中学校、学校型の高尾山学園、まだ認可されていないが校内型の中野中学校という形であったが、私のイメージとしては、極めて融通性が高く、フリースクールに近い形をとっているのが引地台中学校で、それを可能にしているのは、かなり保護者の方に、入学前の説明も含めて、学校の目的の部分伝え mismatch を抑えようとしているというところがあり、そういった形で安心して学んでいるという側面があった。

高尾山学園の方は、どちらかというとしっかりとした学習を保障するという形で、人的資源の投入をしかり行っていた。そして、教育支援センターやまゆりを中心としながら、面談や体験を丁寧に行い、その過程で心理士などを含めたアセスメントを行うなど、かなり学びの多様化学校とのマッチングを丁寧に行っていた。

中野中学校の方は、各自治体とも重層支援を行っている。

その中で、不登校支援窓口を一本化しつつ、相談過程の生徒の情報をカリキュラム化したうえで、アクセスから漏れる子たちがいないような仕組みがあった。

委員の先生方から何かご質問などあればいただきたい。

- 中野区立中野中学校の取組は未認可ということであるが、これは申請を出して未認可なのか、それとも今後申請を出す予定なのか、もし申請出していて未認可であるならば、現状未認可なのか。

- 国の方に申請を上げることはしていない。学びの多様化学校は、校内ではなく、違う場所ということがまず1つの条件であるため、校内に作る場合は、校内の教育支援センターという形で広げているというところで、認可されていない。

ただ、東京都は、このシステムを増やしていきたい、校内の学びの多様化学校として、広く多くしていきたいという考えをもっている。

- カリキュラム的な特例を受けるためにも、学びの多様化学校の認可が必要になるが、現状の国のシステムだと、学校そのものを作るか、分校にするか、分教室型にするかが選択肢になっている。中野区の場合は、学校の中に作ろうとしているが、その部分は既存の認可システムの中に入っていないため、例外的に継続して交渉されている。

以上で、学びの多様化学校の視察報告とする。

では、ニーズ調査に関して、事務局から、ご説明をいただきたい。

- (2) 「誰もが学びやすく居心地のいい学校づくりに向けたニーズ調査」について
資料4-①誰もが学びやすく居心地のいい学校づくりに向けたニーズ調査について
資料4-②誰もが学びやすく居心地のいい学校づくりに向けたアンケート
児童生徒用
資料4-③誰もが学びやすく居心地のいい学校づくりに向けたアンケート
保護者用

協議のまとめ

- ご意見をまとめると、アンケートそのものは、学びの多様化学校に限らず本県において、子どもたちに多様な教育機会をこの後も、どのように保障していくかといった時には、学校になかなか行きづらくなっている子どもたちが、どういったところで、どういった学校なら行けるのか、どういったところなら一息つけるのかについてのニーズを把握しておくことは重要である。そのうえで、調査対象が不登校支援プロジェクト事業と関連する形で、保護者あるいは支援者の方と2人3脚でやるんだとすれば、いきなり行きたい学校で学習面が前面に出てくるというよりは、様々な多様な学習環境についての部分が、前面に出てくるような選択型になるか、それとも子どもたちが自由に発想して、今思っていることを素直に書けるような自由記述型がいいか、それは、聞き取りをしていただくのも含めて工夫する必要がある。特に、どちらかという教育心理学的なアンケートで傾向性を見て、

るところではなく、一つ一つの意見を大切にしていけるアンケートであるため、回答が多様化して分散してもいい。

アンケートを取るにあたっては、調査対象の児童生徒のことを考えると丁寧に発達段階に応じて伝える必要がある。関わっている大人の方を通して聞いていただく形である。

別にアンケートの回答は完璧である必要もない。傾向性を見るうえで完璧でなくても子どもたちの今の願いが伝わるようなアンケートになっておればいい。例えば、担任の先生を選べるとか、学校の決まりを子どもたちが決められるという項目は、学校という形での教育が成立するののかという点で、そこには専門家としてのこの子にとってはこういう支援ができる、こういう先生がいたろうというのはあるので、ワーキングも含めて工夫する必要があるニーズ調査については、以上のような形で、事務局の方でしかるべく工夫をいただき、実施を検討していただきたい。

- 事務局として今のご意見、あるいは付け足しさせていただく。

他県の情報では、学びの多様化学校の設置に向けてのアンケートでは、このような選択肢の多いもので、それは学校に通えていない子どもたち対象であり、どういう環境とか、どういう内容というところの選択肢を与えてあげることが多かった。ただ、その選択肢の項目については、今日ご意見頂いたので、後ほど事務局でも検討させていただく。また、質問5の将来のことですけれども、やはり学びの多様化学校で学んだ子どもたちが、将来、進学もしくは別の道を選ぶかは非常に大きなことである。この質問は、辛いかもしいないが、学校として作る以上は、この先を考えて置く必要があると事務局としては考えている。視察の際にも学びの多様化学校では、進学について困られていた。このことから、その部分も含めてどういう未来を考えているのかを把握する項目を立てた。

最後に、このアンケートは学びの多様化学校だけでなく、通常の学校にもこの子どもたちの声は生かせると事務局は考えている。

最終的には、お示しするガイドラインに参考として、この結果をまとめさせていただき、通常の学校にも生かしていただきたい。また、各自治体が、学びの多様化学校の設置を検討する際に、この子どもたちの声を参考にさせていただきたいと考えている。

- (3) 「学校外の学びの場」について
資料5 教育支援センターの現状
資料6 学校外の民間や公共での学びの場

協議のまとめ

- 学びへのアクセスという考え方、学校へのアクセスではなく学びへのアクセスが大切である。子どもたちがどこかの学びにしっかりつながっているということを、どう保障するのかということを改めて確認したほうがいい。

当然、多様な子どもたちの状況に対して、多様な学びの場の確保が重要であるため、多様な学校外の場も含めてしっかりと整備していく。つまり重層的支援がやはり必要であ

る。重層的支援をしようとする、それぞれの支援の場、重層的に支援するわけであるが、それぞれが同じものやっていたのでは、子どもたちに多様な教育の機会の保障にならない。それぞれのミッションを明確にして、対象とする子どもたち、あるいはそれぞれの状況をしっかりと提示したうえで支援していく必要がある。そこにはアセスメントも含めて、子どもたちがしかるべきところに紹介されていくシステムも重要になる。

子どもたちの状況は変わっていくもので、子どもたちが1回、どこか学びの場につながったからといって、それで終わりというわけではない。やはり学校は、非常に強力な学習保障の場であるので、学校に戻っていくという事がプライオリティとしてある程度高い。

多様な機会を確保することは重要だが、やはり学校という場でこれまで蓄積されてきた教育保障のシステムは極めて重要であるため、そこにアクセスできるようにすることがプライオリティの高いものになる。

ただ、学校に復帰することだけを目的としてはいけないことを考えると、やはり役割分担したうえで子どもたちの状況の変化やミスマッチも考え、相互の長所を生かして、子どもたち全体としての学習保障をどうするか考える必要がある。その点でつなぎ役は重要である。

重層的支援は、大きく支援が多様に行われれば行われるほど分かりづらくなる。広報というよりも、しっかり必要な方にその情報が伝わる仕組みも重要。

広く広報することや窓口を一本化したうえで、漏れなくアクセスが保障されるという仕組みもある。やはり窓口などをきちんと一本化したうえで、そこに相談に来た方たちの情報については、カルテなどの形で確保され、学びにアクセスされていることを、誰かがしっかり確認できるという仕組みが大切である。

県や市町村における役割分担が必要となる。その中で子どもたちのデータや教育そのもの、あるいは相互交流の中で生まれた新しい教育についても、横展開され、各学校での子どもたちの学びやすさにフィードバックされていく仕組みも重要である。

今後、本日の議論も事務局で整理をしていただき、次回の協議会でさらに深めながら、高知県の子どもたちのための教育アクセスをいかに保障していくかについて、先生方と一緒に考えていきたいと思っている。